

神奈川県金融経済概況（2015年4月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は足もとでは幾分持ち直している。輸出と設備投資は持ち直している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は、全体として改善傾向にある。個人消費は、底堅く推移している。この間、住宅投資は、足もとでは改善している。公共投資は、堅調に推移している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 足もとでは幾分持ち直している。

- ・ 輸送機械は、国内向け乗用車が弱めの動きとなっているものの、輸出向け乗用車やトラックの好調などもあって、足もとでは下げ止まっている。
- ・ 素材関連は、建材向け素材が下げ止まりつつあるほか、化粧品などが持ち直しており、全体としては持ち直しつつある。
- ・ 電気機械は、電子部品・デバイスの生産移管の影響が続いているものの、在庫調整の進捗などから、全体でみると下げ止まりつつある。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、円安などの効果もあって、工作機械などが堅調なことから、全体としては持ち直しつつある。

(2) 輸出： 持ち直している。

- ・ 北米向けや中東向けを中心に増加しており、全体として持ち直している。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 3月短観における、14年度の設備投資計画は、一部では投資を減額・先送りする先もみられるものの、収益の改善などを受け、全産業ベースでは前年度比増加で着地する見込み。15年度の設備投資計画は、業容拡大を企図した能増投資や新拠点・新店舗の設置などが計画されており、全産業ベースでは引き続き増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善傾向にある。

- ・ 2月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.07倍と、前月の水準（1.05倍）を上回ったほか、1月の現金給与総額は前年比+2.8%となった。また、2014年の冬季賞与は+5.8%となった。

(5) 個人消費： 底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、高額品などの好調を主因に、堅調に推移している。
- ・ スーパー売上高は、一進一退の動きとなっている。
- ・ 家電販売額は、横ばい圏内で推移している。
- ・ 新車登録台数は、新型車投入効果などから、底堅く推移している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、県内ホテル・旅館の稼働状況を見ると、高水準で推移している。

(6) 住宅投資： 足もとでは改善している。

- ・ 相続税対策の特需により貸家需要が盛り上がっていることに加え、持家、分譲でも駆け込み需要後の反動減からの改善傾向が持続しており、2月の住宅着工戸数は、前年を大きく上回った。

(7) 公共投資： 堅調に推移している。

- ・ 3月の公共工事請負額は、前年を上回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、中小企業向けに拡がりが見られるほか、不動産・住宅関連向けの伸びが続いており、増勢を強めている（貸出金末残前年比：1月+1.7%→2月+1.9%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利前月差：1月▲0.000%→2月▲0.013%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金で安定した伸びが持続していることなどから、引き続き増加している（実質預金末残前年比：1月+3.2%→2月+3.5%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。